さらなる飛躍の年に

県空調衛生工事業協会（安田雄昭会長）は28日、鹿児島市のパレスイン鹿児島で新年会を開き、会員ら約70人が出席して、会員企業のさらなる躍進を誓い合った。

さらなる躍進を誓って乾杯する出席者ら
＝鹿児島市のパレスイン鹿児島で

会では、初めに安田会長が「昨年は台風や地震など大きな災害が発生しました。今年は災害のない明るい年になってほしい。建設業界はまだまだ厳しい状況にありますが、このような時こそ、会員が一致団結することが大切。お互いに助け合い、協力し合うことでこの難局を乗り切ることができると思う。一緒に頑張っていきましょう」と挨拶。

このあと、稲留澄男副会長（丸山工業㈱）が「受注機会の拡大に努めるとともに、さらに発展するように」との発声で乾杯し祝宴に入った。会員らは和やかな雰囲気の中でも、今年1年のさらなる躍進を誓って乾杯する出席者らの姿が印象的だった。

伊集院殖産25周年記念の会

地元への貢献を第一に

不動産事業を通じて地域に貢献する伊集院殖産㈱（橋口修治社長、日置郡伊集院町）が27日、同町の十八番館で創立25周年記念と同社・春山支店開設を祝う謝恩の会を開き、関係者約170人が出席し盛大に祝った。

この日の司会は、橋口社長の古くからの友人で元県議会議員の上原一治氏が務め、軽妙な語り口で祝賀会を進行。初めに主催者を代表して橋口社長が「25年前、1・5坪の事務所で事業をスタートした。大きく変ぼうを遂げる街並みに目を向けると、妻や子供に苦労を掛けた当時が懐かしく思い起こされる。焦らずこつこつと積み上げてきたことが、今日につながっていると思う。社員をはじめさまざまな形で支えていただいた方々への感謝の気持ちでいっぱい。今後も地元への貢献を第一に、町の活性化に向け全力で取り組みたい」と挨拶した。

盛り上がりをみせた祝賀会
＝伊集院町の十八番館で

その後、創業当時から親交の深かった㈲アリムラ水道工業の有村栄一社長ら友人への花束贈呈のほか、永年勤続者表彰、社会福祉協議会への寄付金贈呈など、これまで同社を支えてくれた関係者らに最大限の感謝を表していた。

会場には、宮路高光伊集院町長をはじめ岩崎昌弘県議ら多くの来賓が祝辞を寄せ、祝賀会を盛り上げた。

第2回 薩摩川内市行政改革推進委

離島意見の効果的反映を

第2回薩摩川内市行政改革推進委員会（会長・山田誠鹿児島大学法文学部長）が26日、市役所第1委員会室であり、委員12人全員が出席。第1回で出された委員意見と公募で寄せられた意見をもとに、市政改革の位置付けや「市政改革大綱素案」の各テーマについて審議した。

大綱素案で示された「都市経営」については、「行政側に『経営』の言葉はなじむのか」との問題提議があり、これに対して「行政こそ『経営的』な考え方を持つべきで、『入りをもって出るを制す』の通り、無駄を排除、効率的な運営、すなわち経営を目指すべきだ」「今までは運営に無駄があった。その反省が『経営』という言葉で強調されたものと理解する」「『経営』とは責任をとることである。失敗したときに本当に責任をとれるのか」「効率化や利潤を追求するばかりでは、弱い市民は大変なことになる」－などの発言があった。このテーマについては文言規定を含めて次回持ち越しとなった。

各テーマで話し合う委員ら
＝薩摩川内市役所で

公共施設の「外部委託等の推進」では、「本来公共サービスは、公平に安くというのが基本。市の改善提案がされないまま、安直に民間に委託というのはどうか。市と民間とが競争して、民間が勝ったのならしょうがない。しかしサービスの質を落としてはならない」－などの発言があった。

これについては次回、事務局側が「公共施設数と人員配置」状況等を報告、これをもとに再審議することになった。

「本庁主導の行政運営が目立ち、離島の意見が反映されにくい。『地域が奏でる創造力』の部分を大事にしてほしい」（委員意見）を踏まえ、「効率的・効果的な組織の実現」について審議。

委員から「効率的・効果的とはどのようなことか。その仕事の進め方について具体的サンプルを示し、その上で議論すべきだ」として、次回に持ち越した。

「入札契約・公共工事」については、今委員会では議論がなかったが、前回の委員意見では①工事入札は以前と異なり、業者間の格差がなくなってきているので自由に入札に参加させたらどうか②入札で下限、上限を設定する必要があるのか③箱物の建設、土木工事、道路等はやたら市費を拠出するのではなく、歳入と比較して実施する。例えば何%とかいうように数値を決める。アカウンタビリティーの明確化④公共工事は財政難の折り、削減は当然でやむ得ない－などがあった。

このほか、職員定数の適正化（削減目標）等についても審議した。2月2日、第3回を開く。

なお、同委員会の結果は薩摩川内市ホームページで公表する。

県建造物解体業連合会

日赤等へ

善意の浄財を寄付

社会のために役立ててほしい－と、県建造物解体業連合会（江藤正幸会長）は28日、鹿児島市の日本赤十字社県支部と市社会福祉協議会を訪れ、会員の善意で集められた浄財をそれぞれ寄付した。

同日は、江藤会長と石神民男事務局長が日本赤十字社県支部を訪問。「会員の善意で集めた浄財を国際活動や災害救護に役立てください」と、中川路裕一同支部事務局長に浄財を手渡した。これを受け、中川路事務局長は「経済不況などで全国的に事業資金が減少している中、こういった寄付金は大変ありがたい。毎年、貴重な寄付をいただき感謝申し上げます」と謝辞を述べた。

続いて、江藤会長らは鹿児島市社会福祉協議会を訪れ、赤崎義則会長（前鹿児島市長）に浄財を寄付。これを受け、赤崎会長は「温かく、貴重な浄財の寄付に感謝いたします。今回の寄付を各事業を生かしながら、協会活動をより一層充実させてまいりたい」と感謝の意を述べた。

寄付の後、赤崎会長と懇談する江藤会長（右）＝鹿児島市の市社会福祉協議会で

同会の寄付活動は、日本赤十字社には9年度から実施して今年で8回目。鹿児島市社会福祉協議会には7年度から実施し今年で9回目。このほか、県交通被災者助け合い協会にも寄付を行っている。

江藤会長は「今後も寄付活動はできる限り続けていきたい」と語った。

テラルキョクトウ

栗田電機と資本提携

ポンプ・送風機の大手メーカーの㈱テラルキョクトウ（菅田博文社長、広島県）は昨年、産業用・設備用送風機器などを手掛ける㈱栗田電機製作所（東京都）の株式25%を取得し、業務提携・資本提携に至った。既に菅田社長が栗田電機の社長に就任し、業務効率化や共同調達によるコストダウンをはじめ、ラインナップの充実、両社の商品力や営業力、技術力、生産力を連携することでの売上増を図っていく。

テラルは建築分野の送風機、ダクトファンが主体で、16年6月期で売上高は21億円。

今後、栗田製品をテラルの販売網に乗せることで販売増加につなげたい意向で、テラルの岩川直浩鹿児島営業所長は「農畜産王国で売上高は186億円。栗田は産業・農業向けを中心とした圧力扇、